

# 新産業の創出を支援し、10年 産学官で未来を切り開く



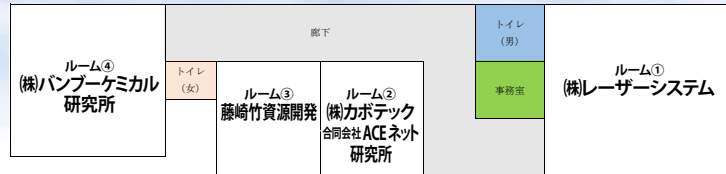
本市では、企業活動および起業準備活動の拠点として、阿南工業高等専門学校キャンパス内に「阿南市インキュベーションセンター」を設置しています。

インキュベーションとは、新規事業の創出や創業を支援するサービス・活動のことを言い、もともとは卵をかえす「孵化」という意味です。

平成22年4月に開所した本センターでは、これまで産学官が共に連携し、新製品・新技術の研究開発やベンチャー企業の育成を行い、特許を出願するなどの実績を残してきました。

新しい事業を始める時、最初はアイデアだけでもいいかもしれません。ビジネスの卵を支援し育て今年で10周年を迎える「阿南市インキュベーションセンター」。新規事業を志す人たちにとって、これからの役割は重要です。

現在、新産業の創出や新技術の開発に日々取り組まれている、入所者の方々をご紹介します。



## 株式会社バンブーケミカル研究所

ルーム4では、地域で未利用の竹や水資源を有効活用し、地域産業の活性化に寄与する研究開発が阿南高専との産学連携で行われている。

具体的には、竹加工機や小水力発電機などの研究・開発および販売を行っており、ルーム内には、バンブーケミカル研究所代表で阿南高専 特命教授の鶴羽正幸さんによって生み出された、独創的かつ実用的な開発商品が所狭しと並べられている。

その他にも技術コンサルタントやLED応用商品の研究など、活動の幅を広げており、将来的には、光(LED)、バイオマス(竹)、エネルギー(発電)による環境の持続可能性を確保する仕組みづくりを見据えている。

同社は、阿南高専発のベンチャー企業として、インキュベーションセンター開設当初から入所し、これまで数々の特許出願と、その技術による事業化の実績を残している、いわば本センターの顔。これからもその活動により、本市産業の振興に貢献していただけることは、間違いない。



鶴羽正幸さんと自動多目的脱水機

## 藤崎竹資源開発

ルーム3では、本市の環境問題でもある放置竹林を豊富な竹資源とするべく、藤崎竹資源開発代表の藤崎 稔さんによる研究・開発が行われている。令和2年1月に入所して以来、竹資源開発の構想は次第に具体化されてきており、竹資源一貫生産システムの確立に向け、その活動は日々加速している。

藤崎さんの取組は、竹資源による新産業の創出のみならず、地域の雇用や環境問題の解消など、さまざまな分野への波及効果が期待できる。まさにSDGs(持続可能な開発目標)を達成していくための取組でもあり、産学官が共に連携する意義は大きい。

豊富な経験と人脈を持ち、日々努力を惜しまない藤崎さん。「竹資源の活用法が本市で確立され、全国へ広がっていくのが、私の願い」と、思いを語っていただいた。

その熱意ある言葉からは、そんな日が来るのもそう遠くはないだろうと、予感させてくれる。



藤崎 稔さん

## 株式会社カボテック 合同会社ACEネット研究所

ルーム2では、主にACEネット研究所代表の湯城豊勝さんによる企業人教育の研究が行われている。また、カボテックとお互いのネットワークを生かして、県内企業をターゲットに企業人教育の充実と拡充に取り組んでいる。

平成31年4月に入所して以来、企業からの些細な相談にも耳を傾け、アドバイスをを行うなど、地道な活動を続けてきた結果、今では多い時で、月2回以上の人材教育に関する講演依頼を受けることもある。

豊富な知識や経験から繰り出される湯城さんの多彩な言葉には、聴く人の人生を変えるほどの大きなエネルギーがあると感じる。何歳になってもチャレンジする心を忘れない、湯城さんの企業人教育による「ひとづくり」が、これからの本市産業の支えとなることを期待してやまない。

今後は、防災・環境を主とした「まちづくり」や退職技術者の、再就職支援活動にも取り組む予定であり、これからの活躍にも目が離せない。



湯城豊勝さん

## 株式会社レーザーシステム

レーザーシステム代表取締役の土内 彰さんにとって、阿南高専は地域の製造業に必要なエンジニアを供給していただく大切な教育機関との思いがあり、同校とは、これまで積極的に連携・協力し、共同で特許を出願するなどの実績を残している。

同社の本業は、レーザー加工装置、レーザー加工用光学エンジンの製造、販売、保守であるが、ルーム1では、阿南高専元特命教授 宇野浩さんとの共同により、小水力発電、波力・潮流発電の事業化に向けた研究に取り組む。

宇野さんは、伊島で波の力を利用して発電する波力発電の実証試験を行った実績があり、その道の第一人者。今ではエース再生エネルギー研究所の代表として、営農太陽光発電や環境教育など、さらなる研究・開発に力を注いでいる。

阿南高専との連携を重視し、新たな事業にチャレンジするルーム1からは、今後、本市の産業を活性化する新たな技術開発の誕生が期待できる。



土内 彰さん(左)と管理部の植田更加さん(右)